

## 環境に対する取り組み

# 環境マネジメント

住友グループは、400年の歴史を通じて、産業の発展と地域社会や自然環境との共存に力を注いできました。住友商事グループは、地球環境問題を正しく認識し、健全な事業活動を通じて「持続可能な発展」の実現に貢献していきます。

### 環境方針

当社グループ各社は、同一の環境方針を共有し、事業に伴う環境負荷の低減及び事業を通じた環境改善の両面に取り組んでいます。

#### 環境方針

住友商事グループは、グローバル企業として、環境問題が地球的規模の広がりを持つとともに、次世代にも及ぶ長期的な問題であることを認識し、健全な事業活動を通じて、社会・経済の発展と地球環境との共生を目指す「持続可能な発展」の実現に向け努力する。住友商事グループは、このような環境に関する基本理念に従い、商取引、開発及び事業投資等において以下の方針に基づき環境マネジメントを実現する。

#### I. 基本理念

住友商事グループは、グローバル企業として、環境問題が地球的規模の広がりを持つとともに、次世代以降にも及ぶ長期的な問題であることを認識し、健全な事業活動を通じて、社会・経済の発展と地球環境との調和を目指す「持続可能な発展」の実現に向け努力する。

#### II. 基本方針

住友商事グループは、国内外におけるさまざまな事業活動を行うにあたり、以下の方針に従い、グループ会社が協力して、この環境の基本理念の実現に努める。

##### 1. 環境に対する基本姿勢

良き企業市民として、当社の行動指針に沿い、地球環境の保全に十分配慮する。

##### 2. 環境関連法規の遵守

国内外の環境関連法規を遵守する。またグループ各社は同意した協定等を遵守する。

##### 3. 自然環境への配慮

自然生態系等の環境保全ならびに生物多様性の維持・保全に十分配慮する。

##### 4. 資源・エネルギーの有効活用

資源・エネルギーの有限性を認識し、その有効利用に努める。

##### 5. 循環型社会構築への寄与

廃棄物の発生抑制・再利用・リサイクルに取り組み、循環型社会の構築に向け努力する。

##### 6. 環境保全型事業の推進

総合力を生かし、環境保全型事業を推進し、社会の環境負荷の低減に貢献する。

##### 7. 環境管理の確立

環境マネジメントシステムを活用して、環境目的・目標を設定、定期的な見直しを行い、その継続的改善を図りつつ、環境汚染の予防に努める。

##### 8. 環境方針の周知と開示

この環境方針は、住友商事グループで働くすべての人に周知するとともに広く開示する。

2012年6月22日

住友商事株式会社 代表取締役社長  
中村 邦晴

### 環境マネジメントシステム

当社グループは、ISO14001 認証を取得し、環境マネジメント活動に取り組んでいます。

当社グループの環境方針のもと、複数の拠点・組織の活動を一元的に管理する統合認証では、2015年6月現在、当社

国内全拠点及びグループ会社27社の計約1万8,300人が環境マネジメント活動に参加しています。



ISO14001  
JQA-EM0451

ISO14001認証を取得しているグループ会社については、当社Webサイトをご覧ください。

➤ [http://www.sumitomocorp.co.jp/csr/environment/manage/iso\\_management/](http://www.sumitomocorp.co.jp/csr/environment/manage/iso_management/)

## 環境に対する取り組み

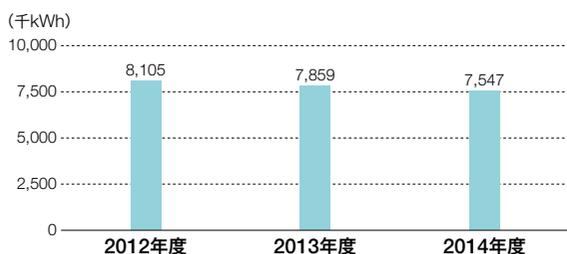
## 環境パフォーマンスデータ

当社グループは、事業活動を通じて環境に配慮すると同時に、オフィスにおいても省エネルギー・廃棄物の削減などに努めています。

※ CO<sub>2</sub>排出量(オフィス、国内輸送・荷主)、水の使用量については、管理の実態に合わせて過年度データを修正しています。

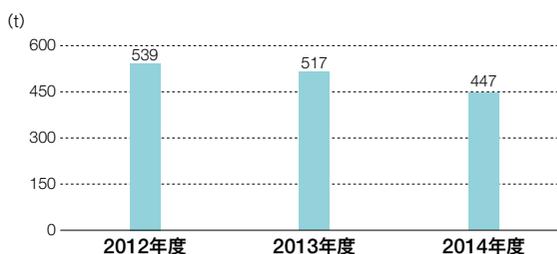
※ 集計範囲: 本社及び国内支社・支店・営業所(水の使用量については3拠点、その他については9拠点)

## 電力使用量



\* 毎年1%ずつ削減することを目標としています。

## 一般廃棄物排出量



\* 毎年1%ずつ削減することを目標としています。

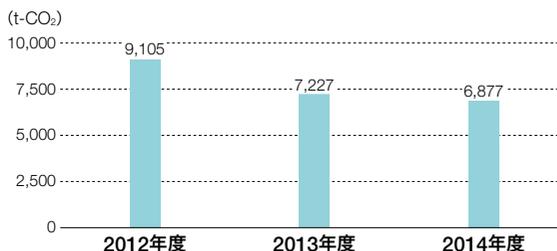
\* 2015年度の目標は、排出量443tです。最終処分量は35tを見込んでいます。

CO<sub>2</sub>排出量(オフィス)

\* 2014年度のCO<sub>2</sub>排出量の内訳はScope1が191t、Scope2が5,167tです。

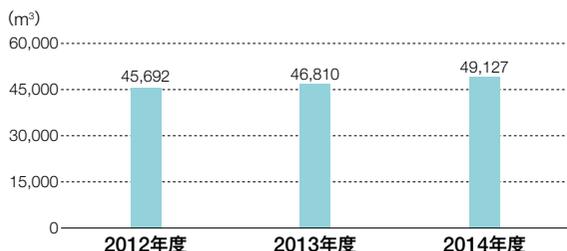
\* CO<sub>2</sub>排出量には、電力使用、都市ガス使用及び地域熱供給(冷温水使用)による排出量の合算値を示しています。CO<sub>2</sub>排出量算出には、次の排出係数を用いました。

CO <sub>2</sub> 排出係数(オフィス)	2012年度	2013年度	2014年度
全電源平均・受電端(kg-CO <sub>2</sub> /kWh)	0.571	0.570	0.570
都市ガスの標準発熱量による換算値(t-CO <sub>2</sub> /千m <sup>3</sup> )	2.234	2.234	2.234
本社の冷温水(t-CO <sub>2</sub> /GJ)	0.041	0.046	0.047
本社以外の冷温水(t-CO <sub>2</sub> /GJ)	0.057	0.057	0.057

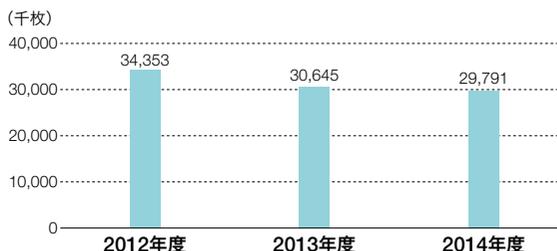
CO<sub>2</sub>排出量(国内輸送・荷主)

\* 「エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)」に基づき、住友商事を荷主とする国内輸送に関わるものを集計しています。

## 水の使用量



## 紙の使用量



\* 事務用紙の購入金額とA4用紙の単価から算出しています。

環境パフォーマンスデータの詳細及び第三者保証については、  
当社Webサイトをご覧ください。

➤ [http://www.sumitomocorp.co.jp/csr/environment/manage/load\\_data/](http://www.sumitomocorp.co.jp/csr/environment/manage/load_data/)

## 事業活動を通じた取り組み

当社グループは、環境方針において「健全な事業活動を通じて、社会・経済の発展と地球環境との調和を目指す『持続可能な発展』の実現に向け努力する」ことを基本理念として掲げ、さまざまな環境ビジネスを推進しています。

### 低炭素社会に向けて

#### ベルギー洋上風力発電プロジェクト

欧州における洋上風力発電市場は、順調に拡大が続いており、2020年までに現在の約3.5倍の発電容量となる見込みです。こうした中、当社は2014年にベルギーのパークウィンドから洋上風力発電事業（ベルウィンド1、ノースウィンド）の株式を一部取得しました。2案件で合計127基の発電タービンを有しており、その発電量は約37万世帯分に相当します。また、ベルウィンドに隣接する新規洋上風力発電事業（ノーベルウィンド）についてもパークウィンドと共同開発中です。

当社は、これまでに日本国内やアメリカ、南アフリカなど、世

界各地で陸上風力発電事業や太陽光発電事業に携わってきました。また、長年にわたる火力発電の建設工事、発電事業で培った部材などを調達するグローバルネットワーク、ファイナンス組成能力があります。こうした当社ならではの強みと機能を発揮し、引き続き、再生可能エネルギーの普及に貢献していきます。



ベルギー洋上風力発電プロジェクト

### 循環型社会に向けて

#### サミット(株)における廃棄物のリサイクル活動

近年、廃棄物問題が深刻さを増している中で、当社のグループ会社である食品スーパーのサミット(株)は、さまざまな廃棄物のリサイクルに積極的に取り組んでいます。

その一環として、1991年から発泡スチロールのリサイクルを実施しており、店舗から排出される発泡スチロール箱や店頭で回収したお客様の使用済み食品トレイを、新しい食品トレイやプラスチック製品の原料として再利用しています。また、2013年には、自社の物流センター内に発泡スチロールのリサイクルセンターを新設し、断熱材の原料として再生するな

ど、再利用の幅を広げています。ほかにも、農事組合法人和郷園と連携し、野菜や果物のくずから作った肥料を使用して栽培した野菜を店舗で販売する循環型リサイクルにも注力しています。こうした取り組みにより、店舗で排出される廃棄物のリサイクル率は現在、約80%に達しています。



物流センター内のリサイクルセンター

### 生物多様性への取り組み

#### 「アンバトビー ニッケルプロジェクト」における環境保全

当社は、マダガスカルにおいて世界最大級のニッケル鉱山開発事業「アンバトビー ニッケルプロジェクト」に参画していますが、同国には約1,000種の希少動物が生息しており、自然環境に十分に配慮して事業を行わなければなりません。そのため、プロジェクトの実施にあたっては、「国際金融公社(IFC)パフォーマンス・スタンダード」や「世界保健機関(WHO)基準」などの各種基準を順守し、生物多様性の維持をはじめとした環境保全の取り組みを徹底しています。具体的には、鉱山サイトの周辺に生息する動物の保全先として「バッファゾーン(緩衝地帯)」を

設置したり、「ノーネットロス、望ましくはネットゲイン」をコンセプトとした「生物多様性オフセットプログラム」を推進しています。今後も、各国の政府や企業、生物多様性の専門家が参画する国際的イニシアチブ「ビジネスと生物多様性オフセットプログラム(BBOP)」と協働し、同国での環境保全に努めていきます。



希少動物カンムリシファカ

その他の取り組みについては、当社Webサイトをご覧ください。

<http://www.sumitomocorp.co.jp/csr/environment/>